

教育委員会だより

令和7年6月25日号 多治見市教育委員会 教育総務課

＜めざす子ども像＞
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

自分の言葉で思いを語る ～わたしの主張2025～

多治見市青少年まちづくり市民会議主催の「わたしの主張 2025」が盛大に開催されました。各小学校区大会で選ばれた児童 13 名、生徒 13 名、総勢 26 名が、それぞれの熱い思いを堂々と発表してくれました。

多くの聴衆を前にして壇上に立ち、体全体から放たれる力強い言葉の数々。子どもたちは、日ごろ感じている社会への疑問、未来への希望、身近な問題に対する独自の視点など、多岐にわたるテーマで主張を繰り広げました。彼らの言葉には、飾らない真摯な思いと、より良い社会を築こうとする純粋な願いが込められていました。発表が終わるたびに、会場からは惜しみない拍手が送られ、多くの参加者が児童生徒たちの真剣な眼差しと、未来を見据える力強いメッセージに心を打たれていました。

今回の「わたしの主張 2025」は、子どもたちが自らの言葉で考え、表現する場として、その重要性を改めて認識させられる機会となりました。多治見市の未来を担う子どもたちの、無限の可能性と成長を強く感じられる一日でした。彼らの主張が、これからの多治見のまちづくりに、そして社会全体に、大きな影響を与えてくれることを期待します。



多治見の魅力を体験 ～土曜学習講座～

6月7日（土）に、本年度第2期の土曜学習『わがまち多治見大好き講座』を開催しました。多治見陶磁器探検隊①「美濃焼名人になろう！」を合い言葉に、子どもたちが作陶体験と茶道体験に挑戦しました。普段とは違う、粘土の感触や抹茶の香りに、子どもたちの好奇心と笑顔がはじける一日となりました。

作陶体験では、意匠研究所の学生さんがマンツーマンで手ほどきをしてくださり、子どもたちは小さな手で一生懸命に粘土をこね、思い思いの形を作り上げていきました。真剣な表情でろくろを回す子、ユニークな器の形に先生と笑い合う子。世界に一つだけの作品が完成するたびに、大きな歓声が上がっていました。

そして、茶道体験では、美濃焼ミュージアムの館長さんをはじめ学芸員の皆さんがわかりやすく説明してくださり、日本の伝統文化の奥深さに触れました。初めてのお抹茶に、ちょっぴり緊張しながらも、先生の丁寧なご指導のもと、お茶を点てる作法を学びました。慣れない手つきで茶碗を回す姿、一口飲んで「苦い！」と顔をしかめる子、でも最後は「おいしい！」と笑顔を見せる子もいて、会場は温かい空気に包まれました。

この土曜学習を通して、子どもたちは多治見が誇る「美濃焼」と「茶道」に触れ、新たな発見や感動を味わうことができたようです。また、発掘された陶器や作家の作品を興味津々に調べ、多治見の伝統文化の素晴らしさを肌で感じ、郷土への愛着を育む、かけがえのない時間となりました。



～灼熱の夏、子どもたちの笑顔を守るために～

多治見市の夏は、今年も例外なく、その厳しさを見せています。連日報じられる猛暑のニュースは、私たち大人にとっても身が引き締まる思いです。しかし、そんな中でも、多治見の子どもたちは暑さと付き合いながら、学校で元気いっぱい学び、活動しています。その笑顔は、学校現場と保護者の皆様との連携と深い愛情に支えられています。

子どもたちの命を守るため、各学校では徹底した熱中症対策が講じられています。教職員は、登校時から下校時まで、子どもたちの顔色や様子に気を配り、少しでも異変があればすぐに声をかけ、保健室での休憩や授業中の水分補給を促しています。また、扇風機やエアコンの適切な使用はもちろんのこと、ミストシャワーの設置、冷却グッズの貸し出しなど、あらゆる方法で体温の上昇を抑える工夫がされています。体育の授業や外遊びの際には、休憩をこまめに取り、日陰の活用や活動時間の制限も徹底しています。そして、朝の会や授業の時間などを活用し、熱中症の症状や予防法について、子どもたち自身が理解し、自ら行動できるよう繰り返し指導しています。

このような学校の取り組みは、保護者の皆様のご協力なしには成り立ちません。毎日の水筒の準備、通学時の服装への配慮、そしてお子様の体調管理に関する細やかな情報共有。これらすべてが、家庭から学校へ、子どもたちを熱中症から守る大切なバトンです。今後も学校と保護者の皆様が一体となって、子どもたちが安全で健やかに過ごせる教育環境を整えるべく、支援を続けてまいります。